

五月一日

朝世田谷村TV取材。屋上、屋内、地下共にカメラを廻した。この番組が出来るのが十月だと言うから、ノンフィクション番組を作るのは長い準備が必要なのだ。こちらも何度かの体験でTV番組の作られ方は少し知ったから、それなりに面白い。ちゃんとした番組作りとはキッチンと附合いたい。十三時世田谷村市場ミーティング。十六時大学へ。M1今月の課題。二十時半世田谷村に戻る。少し皆の仕事を見て3Fの私のフロアで時間を過ごす。少し休めたかな。

五月二日

朝大学院レクチャー。転形期の建築としての鎌倉再建東大寺。南大門、浄土寺浄土堂。ゴシック建築と大仏様の技術に内在する世界性といった話を話す。いつものこの話しをする時は自分でも面白くて乗っちゃうんだよね。午後は幾つも相談、取材等。沖縄計画のディテールを少し進める。原稿少々。十九時過、若松氏来室。社屋兼住宅打合わせ。二十一時世田谷村へ戻る。二十二時打合わせ少々。

五月三日

十時、レウ・ベレズニツキ来世田谷村。彼は七、八年前の私のスタッフだった。今は米国のミネアポリスで働いているようだ。

彼のモントリオール郊外の森の中の家は良かったな。レウもすでに41才になっているそうだ。十三時大学。今日は新しい依頼者と会える日で、又、その状況をTVで収録する厄介な日でもある。十四時藤沢市のTさん一家来室。奥様と子供二人。メールですでに予備知識はあったが、御主人は進行性の脳委縮症で、研究室には歩行補助機を使いながらいらした。しかし、予想していたよりも彼はタフであった。言語障害も少々あるが、前向きであるし、少なくとも前を見ようとしている。奥様の話しをうかがってこれは並々ならぬ仕事なのを知った。実家から離婚をすすめられたがしなかった。何故なら御主人の病気をまだリアルに感じられなかったから。そして私に家づくりを頼もうと思ったのは、実家も含めて今度の家づくりはプレファブメーカーのモノがやっぱりしかりしているからと、すすめられ、それに対する反発もあるらしい。見返してやりたいと言ってたな、そう言えば、御主人の希望が賭けられた命と、奥さんの意地だな、この家の中枢は。私にとつても、こんなある意味では究極状態への家づくりは初めての事になるかもしれない。しかし、子供二人がまことに良かった。娘さんは、もう中学生だが家事全てを手伝い、よく仕切っているそうだ。立派に成人するだろう。本当はこの日記に、こんな風に他人のプライベートを書くのはいけない事だ。しかし高橋さんはすでにTVカメラの前で私に会うのを了解して下さっているので、敢えて書く事にした。TVカメラの前に、二時間弱の対面、会話は厳しいものだった。私も全力で対応しなければならなかった。二週間後に第一案を作り、見ていただく事にした。お目にかかった後、少し時間があつたので早速エスキスをする。十分程で一つ案ができた。究極の、建築家冥利につきる依頼への答えは遠いのだ。連休明けにエスキスをスタッフにわたす。十七時朝山さん来

室打合わせ。この家の案には、まだ足りないモノがある。担当者安藤の力不足は勿論だが、それだけではない。私のアイデアの核がまだハッキリしていないのだ。

五月四日

只今、昼の十二時チョツと前。羽田空港の九番ゲート待合に  
いる。昨日のメモを記している。十二時半の便で沖繩へ飛ばなく  
てはならない。ウトウトしている内に雲の上だった。昨日の高橋  
さんの家はそれこそ生きる為の家だな。小さなローコストの家だ  
けれど一生命やっつて差し上げよう。十七時前、那覇市ハーバー  
ビューホテルで小休。先程国建コンサルタントで打合わせをすま  
せたばかり。那覇空港には照屋君が迎えてくれた。那覇はどんよ  
りとした曇り空でポツリポツリ雨が落ちてくるような天気だ。沖  
縄計画の予算の説明で来ている。世界でも先端的なコミュニテ  
ィ・モデルをつくりたい。これまでの様々な経験をまとめた形に  
したいのだ。

五月五日

遂に連休は一日も休めなかった。これではいけないとは思っ  
たが自然にそうなってしまった。屋上菜園も私の為に作っている  
筈なのに、来訪者、見学者がそこに居る事が多いような現実  
だ。昨夜は二一時頃寝た。明けて三時頃目ざめてしまい、又四時  
に眠り八時前に起きています。眠るのも上手に出来ていない。情け  
ない。八時四五分照屋君ホテルに迎えに来て、車で名護市へ。十  
時北部広域組合に着く。北部振興対策室長他、担当者に計画の説  
明をする。

今、疲れて帰りの便、どうやら少し眠っていたらしい。奄美大

島の辺りを飛んでいるようだ。私だって、できる事ならば田中一  
村のように画業だけに命を賭けて孤島で果てるようなシンプルな  
生活をやればやってみたいのだが。器用なタチじゃないのは自  
分が一番良く知っているのに、それでも色々やり過ぎている。  
それが直らない。散逸の連続だ。でもナア。建築設計だけやって、  
建築家でございのスタイルはチョツと受け入れかねるところがあ  
るんだな。十九時過京王線新宿駅で世田谷村に戻る途中。キャン  
セル待ちを執ようにやって十九時の便を十五時半に繰り上げた。  
この三時間半で少なくとも原稿一本書けるだろう。明日は午後利  
根町に行く積りだが、今の体調では一人は不安な様な気がするが  
だからと言って代りになる奴はいないのだ。二十一時前十勝毎日  
新聞連載最終稿書き上げる。